

「プールで遊んでいるところ」

大坪 篤人（おおつほ あつと） 6歳

小樽幼稚園
（北海道教区）

●表紙のこたば●

お父さんとお母さん、そして3人の子供たちがプールの水をバシャバシャとさせて遊んでいる様子が伸びやかに描かれ、家族全員でプールに行つて遊んだことの楽しさや喜びが伝わってきます。また、水に浸かっている身体の周り、さらに足の間、指の間にも水が入り込むように丁寧に水の色が塗られているのは、身体を通して実感した水の感触を思い出していることです。このように、5歳前後になり、画面上端に空や太陽、画面下端に基底線と呼ばれる地面などが描かれるようになると、自分の背丈と空までの距離感から、人間を画面に小さく描くなどします。大人はそれを物足りなく感じることもあるようですが、これこそ空間の意識が芽生えてきた成長の証です。また人物の周りに色を塗らないのは、自分たちの周りが空気で透明だからです。あつと君は、水の中に入っている身体や水を感じた手指には水を描いています。子供たちの顔のまわりの青色は、積み上げ遠近法で描かれたお父さんお母さんの浸かっている水なのです。



おお はし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科